

教育目標：	進んで学び心身ともに健康で思いやりのある人になる
目指す学校像：	①個性や能力を活かし、「確かな学力」を育む学校 ②思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ③心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す児童・生徒像：	①自ら進んでとりくむことができる生徒 ②心身ともに健康で、互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ③個性と創造力が豊かな生徒
目指す教師像：	①創意ある教育活動に意欲的に取り組むことのできる教師 ②生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ③高い人権感覚をもち、自ら範となり伝えることのできる「教師」

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
学習指導	基礎的・基本的な学習内容の一層の定着を図る。	授業のユニバーサルデザイン化により、どの生徒に参加しやすく取り組みやすい学習指導。	①教室前面をすっきりとさせ、授業の目標と流れを明示し、生徒の活動を適切に取り入れるなど、生徒の集中力を高める。 ②板書の工夫、ノート指導、小テスト、ワークシート、繰り返し学習、夏季休業中や定期考査前の補習などを行う。 ③数学、英語の少人数指導、保体のチームティーチングにより個に応じた指導の充実を図る。	3.3	3.7	3	4	○生徒アンケート結果より、約94%の生徒は基礎的・基本的な内容はおおむね理解できているものと考ええる。	○約6%の生徒にとっては、理解が不十分であり、授業中の工夫、課題の出し方、個別指導等を充実させていくことが課題である。
	言語活動を通じた「思考・判断・表現力」の向上と言語文化の理解を図る。	生徒同士が主体的に学びあえる活動により、思考を深め、表現力を高める。	①活動のゴールを明確にし、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら解決が図れるようにする。 ②言語活動、実験・観察、作品作り、まとめ・発表など、課題解決に向けて、生徒同士が共同し、主体的に学べるようにする。 ③読解力、語彙力、表現力を高めるため、毎朝15分間の朝読書を継続的に行う。	3.0	3.3	3	4	○生徒アンケートでは、約92%の生徒が、言語活動などを通して、学び合うことで理解を深めているものと考ええる。	○今後、新学習指導要領を踏まえて、より一層、主体的・対話的に取り組める言語活動を推進していくことが課題である。
	生徒・保護者にとって分かりやすい評価・評定を行い、学習意欲向上を図る。	絶対評価の評価理念に沿って、指導と評価の一体化を図る。	①年度当初にホームページを通して、生徒および保護者に年間指導計画・評価計画を提示する。 ②評価方法の詳細については学期ごとに評価材料の配点等を生徒に周知する。 ③生徒による授業評価アンケートを7月と12月に行い、授業改善に活かす。	3.3	3.5	3	3	○保護者アンケートで「Aそう思う」の回答が7.4%向上した。保護者の方にもある程度の理解が得られてきているものと考ええる。	○今後も、評価材料の提示に加え、授業中における生徒への説明も充実させていく。また、年間指導計画を家庭配布する。
道徳教育	すべての教育活動を通して道徳教育を推進し、道徳的な心情、判断力、進んで行動する意欲や態度を養う。	進んで参加し、ものごとを多面的に考え、自らの生き方に生かしていける道徳授業を推進する。	①ねらいを明確にした問題解決型授業や体験的活動を取り入れ、生徒が進んで参加できるように工夫する。 ②視覚化を取り入れることにより、どの生徒も課題を共有し、思考過程が分かるように工夫する。 ③全教員が協力して魅力ある教材を開発し、道徳授業の研究を推進していく。	2.9	3.2	3	3	○保護者によるAとBの合計割合が前回の71.9%から86.1%へと大幅に向上した。学校の取り組みがある程度理解されたものと考ええる。	○道徳授業地区公開講座で発表した各学級のいじめ防止に関する決意表明を次年度も生かしていけるようにする。
生活指導	人権尊重の精神を正しく理解し、人間性豊かな生徒を育てる。	規範意識の育成、豊かな人間関係づくり、自尊感情の形成等	①互いの人格を尊重し、思いやりの気持を言葉や行動で表すことのできる生徒を育てる。上級生が常に模範となる校風の継承。 ②仲間を大切にできるようにする。(1)全員が仲間であり、(2)互いの違いを理解し、認め合う(3)礼儀を守る。 ③人格を尊重し、生徒の良さを認め伸ばし、行為については正しく導く姿勢を大切にする。	3.2	3.5	3	3	○2学期後半から学校全体が落ち着いた雰囲気となり、穏やかな環境の中で、仲間を大切にしながら学校生活が送れている。	○一部に心無い言動がみられた。全体指導、個別指導を通して改善を図っていく。また、生徒の多様性を教員を含めて認め合えるようにする。
	社会の一員として安全で節度ある行動と意欲に満ちた生徒を育てる。	防災教育、安全教育の実施と内容の充実を図るとともに、共生社会や国際社会に関する事象への関心を高める。	①安全教育、防災教育を推進し、自らの命を守り、他者の命も守れるよう、意識を高める。 ②災害時の救命救急と避難所運営の担い手としての技能を身に付ける。また、救命救急法の講習会により心肺蘇生や除細動器についての技能を身に付ける。 ③オリンピック・パラリンピック教育の推進を通し、広い視野と行動力の育成を図る。あわせて、障害や困難のある方への理解を深める。	3.0	3.4	3	3	○インターネットの危険性について生徒会でも取り上げ、四中ルールを策定し、一定の成果が出ていると考える。	○登下校を含めて交通ルールを守り、事故防止に努めることが課題である。
	様々な障害・困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	受容・共感的な姿勢で生徒の内面理解を図り、適切な支援策を講じる。	①身体的および情緒的困難のある生徒への理解を促し、適切な指導・対応を進める。毎週1回のサポート会議を開催し、関係諸機関とも連携を図る。 ②個々の生徒およびその背景を理解し、心理や福祉の専門家、関係機関との連携により支援を行う。 ③校内支援と不登校復帰支援、いじめ・虐待の予防・早期発見、サポート教室の活用を進める。	2.8	3.1	3	3	○生徒、保護者とも肯定的評価が80%を超えることができた。特別支援教育について小冊子を作るなど、理解普及に努めることができた。	○支援を必要とする生徒や保護者の立場に沿って、対応していくことが重要である。
進路指導	体験等を通して将来を見据え、適切な進路選択ができる生徒を育てる。	総合的な学習の時間を活用し、三年間系統的に進路指導を行う。	①1学年：職業調べを実施し、職業に関する関心を高め、将来設計のきっかけとする。 ②2学年：3日間の職場体験学習により働くことの意義や社会性を学び、出前授業では進路選択に向けた関心を高める。 ③3学年：1、2学年の経験を基に、自らの進路を切り拓けるよう、指導・支援を行う。		3.4		3	○前回は、未実施の部分が多かったため、今回初めてのアンケート結果である。おおむね肯定的な評価であった。	○受験指導だけではなく、将来設計能力、人生観や勤労観の醸成などをねらいに3年間系統的に実施していく。
特別活動	学級の一員としてよりよい学校づくりに参画することで、生徒の社会性を育む。	学級規律と学級組織を基盤とし、その中で個を生かし、個を支援するとともに、行事を通して団結心を育む。	①担任および学年教師との信頼関係を基盤に、より良い人間関係を形成し、生徒の個性が生かせる学年・学級集団をつくる。 ②係り活動を通して、学級の一員としての責任感と自己肯定間感を高め、生徒の良さを認め合い、個性を育む。 ③運動会や合唱コンクール、宿泊行事などを通して、学級や学年の団結を育む。	3.3	3.6	3	4	○合唱コンクール、校外学習などでの取り組みを通して学級や学年がまとまり、生徒一人一人の良さが伸びてきていると考える。	○生徒が主体となった取り組みを通して、さらに生徒の良さを伸ばしていく。
	生徒会の一員としてよりよい学校づくりや地域づくりに参画する生徒を育てる。	生徒が自らの活動の計画を立て、協力して取り組めるよう指導する。	①生徒総会や生徒会朝礼、委員会活動を通して、生徒会としての課題解決や目標達成を生徒自らの手で取り組めるようにする。 ②四つ葉のクローバー運動を通して、「思いやり」「伝統」「正義」「助け合い」の精神を育む。 ③いじめ防止フォーラムをはじめ学校外の行事に参画することで、地域の一員としての自覚を育む。	3.0	3.1	3	3	○委員会活動、あいさつ運動、マルベリー運動などの生徒会活動を通して四中のよき校風が受け継がれていると思われる。	○教師に指示されたことだけではなく、自主的行動力を育てていくことも課題である。

解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4(ほとんど達成した)、3(達成できた部分が多い)、2(達成できない部分が多い)、1(ほとんど達成されていない)となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果(ABCD4段階)を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。

教育目標：	進んで学び心身ともに健康で思いやりのある人になる
目指す学校像：	①個性や能力を活かし、「確かな学力」を育む学校 ②思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ③心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す児童・生徒像：	①自ら進んでとりくむことができる生徒 ②心身ともに健康で、互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ③個性と創造力が豊かな生徒
目指す教師像：	①創意ある教育活動に意欲的に取り組むことのできる教師 ②生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ③高い人権感覚をもち、自ら範となり伝えることのできる「教師」

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	今後の課題	学校関係者評価記入欄 (学校運営協議会委員)
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
学習指導	基礎的・基本的な学習内容の一層の定着を図る。	授業のユニバーサルデザイン化により、どの生徒に参加しやすく取り組みやすい学習指導。	①教室前面をすっきりとさせ、授業の目標と流れを明示し、生徒の活動を適切に取り入れるなど、生徒の集中力を高める。 ②板書の工夫、ノート指導、小テスト、ワークシート、繰り返し学習、夏季休業中や定期考査前の補習などを行う。 ③数学、英語の少人数指導、保健体育のチームティーチングにより個に応じた指導の充実を図る。	3.3	3.7	3	4	〇約6%の生徒にとっては、理解が不十分であり、授業中の工夫、課題の出し方、個別指導等を充実させていくことが課題である。	〇英語では楽しみながら授業を受けていた。大切なことである。 〇ねらいと流れがどの授業でも明示されて、重要事項では個別指導がなされていいて良い。
	言語活動を通じた「思考・判断・表現力」の向上と言語文化の理解を図る。	生徒同士が主体的に学びあえる活動により、思考を深め、表現力を高める。	①活動のゴールを明確にし、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら解決が図れるようにする。 ②言語活動、実験・観察、作品作り、まとめ・発表など、課題解決に向けて、生徒同士が共同し、主体的に学べるようにする。 ③読解力、語彙力、表現力を高めるため、毎朝15分間の朝読書を継続的に行う。	3.0	3.3	3	4	〇今後、新学習指導要領を踏まえて、より一層、主体的・対話的に取り組める言語活動を推進していくことが課題である。	〇発問の工夫で思考がより良く促される。大切にしてほしい点である。 〇生徒の発言の声小さい。これは控えめな日本人の美徳ではあるが、これからは堂々と話すことも必要。
	生徒・保護者にとって分かりやすい評価・評定を行い、学習意欲向上を図る。	絶対評価の評価理念に沿って、指導と評価の一体化を図る。	①年度当初にホームページを通して、生徒および保護者に年間指導計画・評価計画を提示する。 ②評価方法の詳細については学期ごとに評価材料の配点等を生徒に周知する。 ③生徒による授業評価アンケートを7月と12月に行い、授業改善に活かす。	3.3	3.5	3	3	〇今後も、評価材料の提示に加え、授業中における生徒への説明も充実させていく。また、年間指導計画を家庭配布する。	〇学んだことが、卒業後どうつながっていくかという視点も必要。 〇身近な問題に取り組みせることで学ぶ意味や意義が理解できるのではないかと思う。
道徳教育	すべての教育活動を通して道徳教育を推進し、道徳的な心情、判断力、進んで行動する意欲や態度を養う。	進んで参加し、ものごとを多面的に考え、自らの生き方に生かしていける道徳授業を推進する。	①ねらいを明確にした問題解決型授業や体験的活動を取り入れ、生徒が進んで参加できるように工夫する。 ②視覚化を取り入れることにより、どの生徒も課題を共有し、思考過程が分かるように工夫する。 ③全教員が協力して魅力ある教材を開発し、道徳授業の研究を推進していく。	2.9	3.2	3	3	〇道徳授業地区公開講座で発表した各学級のいじめ防止に関する決意表明を次年度も生かしていけるようにする。	〇道徳性は、いくつになっても常に人間性を磨いていく必要がある。 〇人工知能にはない感情というものを、より豊かに育てていく必要がある。
生活指導	人権尊重の精神を正しく理解し、人間性豊かな生徒を育てる。	規範意識の育成、豊かな人間関係づくり、自尊感情の形成等	①互いの人格を尊重し、思いやりの気持を言葉や行動で表すことのできる生徒を育てる。上級生が常に模範となる校風の継承。 ②仲間を大切にできるようにする。(1)全員が仲間であり、(2)互いの違いを理解し、認め合う(3)礼儀を守る。 ③人格を尊重し、生徒の良さを認め伸ばし、行為については正しく導く姿勢を大切にする。	3.2	3.5	3	3	〇一部に心無い言動がみられた。全体指導、個別指導を通して改善を図っていく。また、生徒の多様性を教員を含めて認め合えるようにする。	〇学校が落ち着いており、教員も熱心に指導してくれているため、生徒は充実した学校生活が送れている。
	社会の一員として安全で節度ある行動と意欲に満ちた生徒を育てる。	防災教育、安全教育の実施と内容の充実を図るとともに、共生社会や国際社会に関する事象への関心を高める。	①安全教育、防災教育を推進し、自らの命を守り、他者の命も守れるよう、意識を高める。 ②災害時の救命救急と避難所運営の担い手としての技能を身に付ける。また、救命救急法の講習会により心肺蘇生や除細動器についての技能を身に付ける。 ③オリンピック・パラリンピック教育の推進を通し、広い視野と行動力の育成を図る。あわせて、障害や困難のある方への理解を深める。	3.0	3.4	3	3	〇登下校を含めて交通ルールを守り、事故防止に努めることが課題である。	〇携帯電話を通じた通信交流(SNS)は、使い方や約束を決めることなど、保護者の責任が大きい。 〇学校は引き続き、保護者への啓発を行うことが重要である。
	様々な障害・困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	受容・共感的な姿勢で生徒の内面理解を図り、適切な支援策を講じる。	①身体的および情緒的困難のある生徒への理解を促し、適切な指導・対応を進める。毎週1回のサポート会議を開催し、関係諸機関とも連携を図る。 ②個々の生徒およびその背景を理解し、心理や福祉の専門家、関係機関との連携により支援を行う。 ③校内支援と不登校復帰支援、いじめ・虐待の予防・早期発見、サポート教室の活用を進める。	2.8	3.1	3	3	〇支援を必要とする生徒や保護者の立場に沿って、対応していくことが重要である。	〇どのような支援が受けられるのかについて今後も周知をしていくことが大切である。
進路指導	体験等を通して将来を見据え、適切な進路選択ができる生徒を育てる。	総合的な学習の時間を活用し、三年間系統的に進路指導を行う。	①1学年：職業調べを実施し、職業に関する関心を高め、将来設計のきっかけとする。 ②2学年：3日間の職場体験学習により働くことの意義や社会性を学び、出前授業では進路選択に向けた関心を高める。 ③3学年：1、2学年の経験を基に、自らの進路を切り拓けるよう、指導・支援を行う。		3.4		3	〇受験指導だけではなく、将来設計能力、人生観や勤労観の醸成などをねらいに3年間系統的に実施していく。	〇中学校で習ったことは、長い人生の中で必ず役に立つことがある。教科の学習だけではなく、進路指導でも将来への見通しを持てるようにすることが大切である。
特別活動	学級の一員としてよりよい学校づくりに参画することで、生徒の社会性を育む。	学級規律と学級組織を基盤とし、その中で個を生かし、個を支援するとともに、行事を通して団結心を育む。	①担任および学年教師との信頼関係を基盤に、より良い人間関係を形成し、生徒の個性が生かせる学年・学級集団をつくる。 ②係り活動を通して、学級の一員としての責任感と自己肯定間感を高め、生徒の良さを認め合い、個性を育む。 ③運動会や合唱コンクール、宿泊行事などを通して、学級や学年の団結を育む。	3.3	3.6	3	4	〇生徒が主体となった取り組みを通して、さらに生徒の良さを伸ばしていく。	〇生徒は3年で入れ替わるが、変わらない校風があるということは母校愛、郷土愛、国土愛につながる。 〇教員が校風を受け継いでいける学校体制が重要である。
	生徒会の一員としてよりよい学校づくりや地域づくりに参画する生徒を育てる。	生徒が自らの活動の計画を立て、協力して取り組めるよう指導する。	①生徒総会や生徒会朝礼、委員会活動を通して、生徒会としての課題解決や目標達成を生徒自らの手で取り組めるようにする。 ②四つ葉のクローバー運動を通して、「思いやり」「伝統」「正義」「助け合い」の精神を育む。 ③いじめ防止フォーラムをはじめ学校外の行事に参画することで、地域の一員としての自覚を育む。	3.0	3.1	3	3	〇教師に指示されたことだけではなく、自主的行動力を育てていくことも課題である。	〇情報通信交流(SNS)のアンケートなど、生徒会が自主的に取り組んでいる。四中eルールをつくり、生徒及び家庭への啓発を行っていることは大変良いことである。

解説

この「学校関係者評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、学校側が課題を提示し、学校関係者(学校運営協議会委員)からの評価(意見)をまとめたものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4(ほとんど達成した)、3(達成できた部分が多い)、2(達成できない部分が多い)、1(ほとんど達成されていない)となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果(ABCD4段階)を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。